

明治三十八年  
館長日誌  
第一月以降



特別
14
1919
926





留  
1927  
15

14  
1919  
926

210190048310

要件日法

図書館長

昭和十八年一月以降



〇十日

本館事務局を閉

一 重要書多枚圖書を閲覧資料に件

に因し左に決定を為す

一 自ら重要書多枚圖書を公衆

と同し一回券を發行し之に

文附し之を閲覧券とす

し

41. 2019. 1. 14. 1919. 926. 404







十一〇

本日午前九時、本校中庭にて本学  
堂の落成式、早稲田中二、三校の  
を招き、祝詞し式と執りす其の  
末左し

開会し後

賀表を呈するに由り又副長

早稲田中二校長佐々木

奏楽

陸海軍の海軍を是るの勳

宣旨を授けし天を為之

奏楽

あはれ下并に陸海軍

の奉養を以て

早稲田中二校

大隈氏

奏楽

散会

一、早稲田中二校の祝意を呈しし



書籍に館費を充てず、  
一、本部に在るもの、  
一、商売の爲に集りて、

十三

一、加藤半蔵の「  
洋書カード」の由、  
海軍省の「  
印刷日報」を以て、  
更なるカードの

あり

一、前記の「  
の刊行に、  
つき、  
一、凡例を、  
一、是の「  
この「



同と飲つて元換に若しとてのきと四六  
 長見と一政せしとるゐるをさうす一層  
 とあつた高減の中一五六く人を集  
 めるに照減をさしそのをあらうし  
 充分討紙の上決定する是也  
 族の甚多風をさしエニカイソロビニヤ  
 かりメニカニニ十とつ冊移るにん  
 漢受人を兄出し其の代償を以つ  
 七六の所を主張を納むるに約也

十四日一十九日

一 揚井のむきむきとてさう家苑(高貴  
 部)移る一冊移るさう  
 一 石川朱章もさうとて邦を移る  
 標するに十餘点を古紙標する家  
 一 齊野のさうとて代償を兄移るさう  
 一 高見のさう二十箇のさう也  
 一 藤原のさうさう出さうさうとて高見苑  
 集あし保に潤しおんをさう  
 一 各地高見苑集あし潤するさうとて



校有中... 選撰するもの書面を...  
七位... 元也

一 早稲田大学報原稿と... 責任者、  
交付了

一 現下... 原稿... 東京  
紫氏... 寄附書

一 彼も... 出張... 寄附書  
一 去年十二月中... 寄附書

洋書  
寄附 一六 部 二二 冊

焼入 一〇四 一三五  
計 一三〇 一五八

和洋書

寄附 七〇 七八

焼入 七〇 二八二

計 一四〇 三六〇

一 目録... 寄附書... 寄附書  
の上... 寄附書... 寄附書  
寄附人名を

寄附 寄附 寄附



● 新刊 蘭語訳撰 彙編 蘭文 考 彼 抄 本  
未 だ 掲 示 し 行 布 せ ざ ざ ざ 三 四 人  
乃 亦 十 一 二 名 之 過 ぎ 氏

一 地 理 子 科 月 破 百 針 測 角 器 筆  
袋 以 及 織 越 地 代 價 十 七 圓 二 十 圓  
隨 時 亦 亦 支 出 支 出 支 出 支 出 支 出 支 出  
一 つ を 以 て 支 出 支 出 支 出 支 出 支 出 支 出  
出 支 出 支 出 支 出 支 出 支 出

一 高 級 織 物 子 科 考 究 書 連 記 録 本 邦 之 織  
物 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録

考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録  
考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録

廿二

一 目 録 編 纂 子 科 考 究 書 連 記 録 本 邦 之 織  
物 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録

一 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録  
考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録  
一 高 級 織 物 子 科 考 究 書 連 記 録 本 邦 之 織  
物 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録 考 究 記 録



四の...の明...の...に於て...の...の...の...  
...の...の...の...の...

一 地理...の...の...の...の...の...  
集...の...の...の...の...  
田...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

一 下谷...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

一 寺...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

一 命...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

一 三十七年...の...の...の...  
...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...

廿号

一 井...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...



一 方面書物雑誌その他者甚く著と致し  
同流の多層連記物し奇想を  
在り

一 多量な書物及び同書代名に出版部  
同書代名を全見干因致しり多  
明の少少元祖也

一 安印雑誌唯れし其多の関了  
る者二十一日の母之り終り

一 圖書館雑誌(二十七年)原  
行を多しり度新編一冊

一 書物志一氏し其福論其外に  
佛書購入此物全十の館長  
所印の書物

一 圖書館雑誌を出版しめか所を  
同と致し流す

一 同流しし石し圖書館を  
多し

Saintsbury's  
History of Criticism 3 Vol  
外國雑誌 アカデミク  
リテラチャー



自今燐石を罷ちるに決す（燐石と根  
液の結晶也）

其考 時代

- 一 位仕古川久二と云ふことありし  
もの事
- 一 獨り聞くと云ふ事ありしを  
多しと云ふことありしを  
聞き古川久二と云ふ事ありし  
事ありしと云ふ事ありし

- 一 彼中谷燐石と云ふ事ありし  
事ありし
- 一 燐石の事ありしと云ふ事ありし  
事ありし

其考

- 一 燐石の事ありしと云ふ事ありし  
事ありし
- 一 燐石の事ありしと云ふ事ありし  
事ありし



てく出改す

一二月下旬新編海軍の関し松城を  
を編むの事知を左の教札にありす

海内 二つ田 沼田 塩原 松平  
吉田

林吉一 北九

一子壽之利 於克丸氏とてり 霞交  
我々の電 運送之記念とてり 大  
坪本流馬吉 官とてり 十七冊 軸

物二十一 一巻 寄贈ありとあり

一 林吉一の日記とてり 帝國大学 図書  
に於て又 東京 塩原 沼田 松平 吉田  
より寄贈ありとあり 大坂 吉田  
決す

一 同の日記とてり 明治 吉田 松平  
名 吉田 松平 沼田 塩原 松平  
純吉 松平 吉田 松平 吉田  
名とてり



一 廿七八あり、山林堅三、榜流く、出張し  
乙 荒干し、高島元を、難く、切へ

一 京都、ある高比の、江、中、長、河、と  
高、平、之、勢、集、あり、件、之、周、し、未、有、  
ありし

一 三井の、田、川、炭、礦、中、務、ありし、と、石、炭  
く、る、を、を、ま、る、と、ま、る、

一 下谷、井、河、く、あ、森、あり、ま、る、と、し、和、洋、書  
二十、改、印、く、寄、附、あり、と、領、あり

一 彼、中、林、の、新、田、集、言、民、の、高、島、と、  
を、清、之、是、高、島、と、高、島、と、高、島、と、  
の、伝、を、あり、と、何、森、あり、と、高、島、と、  
と、上、通、あり、と、約、あり

一 高、島、と、林、の、新、田、集、言、民、の、高、島、と、  
坪、淡、言、の、新、田、集、言、民、の、高、島、と、  
高、島、と、林、の、新、田、集、言、民、の、高、島、と、

三十百

一 村上、吉、村、氏、あり、と、高、島、と、林、の、新、田、集、言、民、の、高、島、と、



昭和

- 一 圖書刊後統計表 二〇二〇年三月迄の
- 一 終止と施し ありて印刷出来
- 一 事務月カード 一トキ万枚也 以て之を 注
- 又す
- 一 續編活録印し 勅語 了
- 一 山田市 郎来二月迄 二回迄 八
- 一 田ノ佐 判し といふ といふ といふ といふ
- 一 長田 佐 判し といふ といふ といふ といふ
- 一 韓 判し といふ といふ といふ といふ

然し といふ といふ といふ といふ

一 グリフミス といふ といふ といふ といふ

一 定書 判し といふ といふ といふ といふ

〇二月一日

一 録書 判し といふ といふ といふ といふ



す

一本枚より接し左より南極点と居り一圓者  
目録編纂法に關し録し調査するに於  
果を執る一依るとして白紙の二枚を  
方針と涵定す

牛島島 二由子島 河内雄飛  
河内和茂 塩澤男久 松本泰四  
吉田宗任 鈴木 丸藤宗久

一印刷目録なるもの形式を採らば可也

原案

分科体著者名目録(臨時的分  
類目録に改定す)

附字書体件名目録(著者  
名を混じらぬ)

一十ード目録の何れを要するや

原案

関路宗久

分科体目録 著者名  
分科体件名 著者名  
目録 二二二

講評家

著者名(全印字母順)

目録(著者名)



石室を以て原安を可考し一後考を存を  
報す

一山田市一印勝を考す一其後を業校の  
報を以て勝を考す

二〇

一各地方校を以て高平善集を考す人を托  
す又又未出果ありとも二十一日  
字を以て考す印一其地を托す

一山田市一印一且其地を考法(其地を托す)

勝(一)に勝を考す命す

一丸を以てアセニアム・セリースの又考す  
左に考す勝を以て考す

R. Burton's Anatomy of Muscular Body

三〇一ニ

一彼中を以て考すを以て考す三四あり久考

一其地を以て考すを以て考す其地を以て考す

一其地の又士(鄭國)を以て考す其地を以て考す



一石川和幸丸とて高野のりも幸高  
不化不の標を頼り地孫とて故伊東  
重助とて故幸高とて

一生田七郎とて高野のりも幸高  
瓶の標を幸高とて高野のりも幸高  
とて高野のりも幸高

一中井おきりもとて高野のりも幸高  
とて高野のりも幸高

一丸を丸とてアセニウム、セリリース、  
アトシのアナトニール、シラス、メランスリール

等泡入とて高野のりも幸高

一梅原精一丸も高野のりも幸高  
の園市も高野のりも幸高

一三井とて高野のりも幸高  
とて高野のりも幸高

一公衆書(刻)川とて高野のりも幸高  
とて高野のりも幸高  
とて高野のりも幸高

千枚

一左の校る、高野のりも幸高











一 衝立ヲ次つて婦人房と園み男房  
として兼てえたる様なり

一 道路も廣らめ男女の混雜を  
廻らす

一 婦人房に印刷見報(二)を修  
つこと

一 三十七年二月のあつた新築園書日  
報(騰字本)ヲ七條に併い一  
男女子混じりカードを授  
ふることを廻らす

一 婦人に園書の名目本報を  
授筆しし婦人房に授筆し

一 入信の件に對して返に於ても  
電報に在りては直に電報を  
送る

一 園書に併し園一石次  
の雄俊也

九

一 子書之類が本親、園書  
委託の事と勸修



一 個人の書名を掲げ、その書名を改定し、又  
その詳細目録を、その書名に掲げ、その書名  
を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

一 山田市一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

一 高平一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

一 高平一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

可

一 高平一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

一 高平一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、

一 高平一印、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、  
その書名を掲げ、その書名を掲げ、その書名を掲げ、



一 後東土曜のハリぬる閉館の曜も日あり  
しと申す。ハリぬる閉館しと  
定古

一 伊予守助、辞任を申し出されし事、其の  
者、要地を引つぐ、あかたに任  
を申し出され、彼れを申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針

此の少と定りし事

一 藤原南庵(ま印)と申す、其の  
数十と申す、其の  
一 関後あるの内、其の  
ぬらぬらし、関後を申し出されし方針  
を申し出されし方針を申し出されし方針

十一一 十三〇

一 十の紀えり、其の  
一 田中松らり、其の



流し方とありし四半一七の  
上し件詳述し方とす

一 絹糸紡績元を若干一里紡績  
法とありし方とありし

一 糸四つ子とありし方とありし  
又之を改良し四改方を  
有つたものとありし

十号一十号

一 伊東の助光ありし

一 町山井屋三持流し出張原高尾

一 三井流し金名多流し芝浦流し

一 流しの元を日本を兼今流しと麻糸

糸と麻糸物とを流しとす

一 高尾元と中野の件とありし

一 未現在関流しと休憩室とありし

一 せん本室とありし

一 藤と糸とありし

一 すすこ決す



一 工。ビー、プレス（大形丸三十日也）石南  
科 生者ありこ入目し染るるき 藤系  
外 支出ししと 燐入し保号鳥の魂可  
を得丸長く治又す

一 親家系諸侯書甘く書るる方、四下

一 板式名をいしる元版 韓文考異

五下の版 論語 孟子 中山 板 瓊表

集 五の 珠 瓊 表 燐 入

一 一の 燐 入し 杜 城 岡 寺 殿 之 林 養 鞠 氏  
車 観

十七のー十の

一 一の 燐 入し 久 延 多 治 方 上 一 併 行  
彼 中 時 年 余 老 一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入  
方 一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入

一 十の 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入

一 岡 少 路 内 務 部 才 三 課 休 養 一 一 の 燐 入

一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入

一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入 一 一 の 燐 入











経二万紙に及す

一 帝國圖書院の山利和洋書目録の  
焼

一 高次郎の日記を著す、  
（所蔵あり）

一 米年かしく本科生に  
送料 五或増ししに  
函状坂山千之丞に  
以つて金印を  
一本の五のり

一 函状坂山千之丞に  
以つて金印を  
一本の五のり

一 函状坂山千之丞に  
以つて金印を  
一本の五のり

手裏しるしを決定す

其書

一 古書考其成底

一 漢書考其成底

一 漢書考其成底

一 漢書考其成底



其の係焼入を係おするべき産を認めず  
油を要する事

一 東京美術学校に古畫を寄託する事  
あり既に方々の請あり

一 校舎修繕を急務とし、新築の工に  
リペアや大工に着手し、修繕し、修繕

一 此等物をとらるる  
その他何に於て物を高く買入れ、後計

一 考を高くし、事、圖書館を池  
や等と札幌の上流又と和衣也

一 石指物をまぜたつる金を利用し、古  
し寸人を示し、交換方を余り、え

一 来、年がに取らるる準備也

一 名時物、扁池、草の二者、二部ある  
こと、佐に圖書と交換し、るべき、原

係と拮除る

林二

一 日曜

一 帝國女子附属圖書館に於て、未二回、







漢之関し之打合をのさるも彼よりとの  
 契約改訂に關し建設をうす結句次  
 等とてその條に於て修正ありしを  
 出す事とす  
 一 漢之関し之打合をのさるも彼よりとの  
 契約改訂に關し建設をうす結句次  
 等とてその條に於て修正ありしを  
 出す事とす  
 一 漢之関し之打合をのさるも彼よりとの  
 契約改訂に關し建設をうす結句次  
 等とてその條に於て修正ありしを  
 出す事とす  
 一 漢之関し之打合をのさるも彼よりとの  
 契約改訂に關し建設をうす結句次  
 等とてその條に於て修正ありしを  
 出す事とす

連洋書法付二割り主古拙に於  
 一 直接高方、又、  
 取扱及ち(一〇〇)  
 小山氏お子と右し女し

Dr. A. Dyama  
 Berlin W.  
 Jauthenstr. 14 A<sup>1</sup>

一 金子馬次也  
 一 洋書(佛書)関し(一〇〇)  
 十四部購入し之とす







才速記帳しるに別了

一 友枝二部(一部係ある)辨本しるに二六

中央部のE部よりを自今二部の

一部辨本之令しる

一 和洋書か下と説し部ハニん迄の

大し少説辨録し其入をしる自

今より以前と以後とを別了

校する便しるをらしるを考弁

ことお方を余す

一 座可の年を校し辨本に依り其の由辨

是に特め説説票を交付す(本記又次  
印也如也)

一 板仁一郎氏事録

一 高田也(一)松平也(四)の書文を

用しと高し(一)本を(一)泰山系に孔子

の廟の言を其故校を後文(一)に録し

高田也(一)也

三月九日

一 幸四天子附属圖書館長和馬氏(一)右の書



面を領す

(前巻) 此邦北米合衆國マイン物トーカス  
在任 ビー、フエンナウ氏より世界の圖書  
館に關する一書撰述の材料として  
りける目下此の圖書館の情況報  
及之類、此邦の圖書館に關する  
世界の最近況を外國に披瀝するの概  
略としてあるもの、其末云々、  
云々、云々、云々、云々、云々、  
中一冊、附録として、人物誌、左記、四冊、討

と成ルヘリ、精確なる資料の現狀、逐一、  
列すべし、

- 一 設主ノ目録 (四ノ部、五ノ部、又ハ、  
二 往持法及歲入、年數、  
三 所産ノ書、冊子、寄本、地圖ノ數

- 四 其他ノ重要事、  
例ハ、最近一年間ノ  
増加冊數、同上、  
日數、同上、  
同上、  
同上、







辨取入子園説を返す事

一 菊池之入り也... (山位也...)

一 菊池之入り也... 二十の... 未... 了

一 初来... 復... 園... 引...

一 三... 義... 事... 説... 目...

を必... 事...

一 下... 社... 説... 提... 説...

一 高... 山... 作... 事... 説... 事...

三月十一日

一 小... 橋... 上... 説... 説... 説... 説...



一 明日のり曜を利川しん居候を出入し  
同書と暮るんを明し部つてを定ぬ  
石井か舞を海を初候物をまじりて(五)字  
法家を居候候とてしつるに法あり

一 公衆閱見開始、結果トシテノ理合者  
初歩ノ必要ヲ生シ丸書ニ由山ノ由ニ  
尚シテ其ノ出版ニ係ル者ノ齊整ヲ需  
ム  
一 排字迄空ノ餘化し候より未だ不可  
申衆氏ノ御心ニ候

三月十二日

日曜

三月十日

一 内務入秀旅能甚感候とて未だ勸可  
一 錦芝山并に北河津嘉嘉油高尾  
高尾石をいし寄り送るに客内杉あり  
しとお島津由志しをいし寄り候可  
り

一 水と家とを程傳受し候より是の如



早稲田力學園書庫

子書討しし是方函儀し録し事不  
二日の朝録書ある書行回付少梅く即  
行く元

一 高田寺堂に托し三郎... 辨入  
く書行録... 一部... 納書... 書  
柳也い交付す

一 寺堂... 田原寺と根沼の  
上幹寺... の録... 寺... 寺  
り

一 二月中... 園寺(初澤寺)右し

辨入

二一

六四冊

寄貯

八〇

三〇八冊

計

一〇一

三七二

一 是和子書... 家... 家...  
打合を... する

一 抄... 本... 出... 名...  
を... 了

三月十号

一 未... 又... 守... 也... を... 係... 之... 本... 有... 之... 故... 取... 也



一 皇朝掌故讀本  
 一 大清一統志  
 一 皇朝一統輿圖  
 一 中國商務志  
 一 皇朝政典挈要  
 一 國朝尚友錄  
 一 將帥別傳  
 一 通商始末記  
 一 拳匪紀畧  
 一 十一朝東華錄輯要

十一朝東華錄輯要	三兩五錢
拳匪紀畧	二錢九分
通商始末記	二錢九分
皇朝政典挈要	五錢四分
國朝尚友錄	二錢七分
將帥別傳	二錢四分
皇朝掌故讀本	三錢二分
大清一統志	十一兩五錢
皇朝一統輿圖	四錢五分
中國商務志	二錢八分



中國通商物產志

四錢二分

中國度支攷

一錢二分

中國財政紀略

一錢四分

皇朝新學類纂

皇清奏議彙編

一兩一錢

維新奏議

三錢二分

翼教叢編

三錢六分

支那教案提要

一錢四分

仿殿

七兩二錢

欽定中樞政考

十六卷

欽定字政令考

二十四卷

憲章類編

明方塔著

二十卷

府物沿革簡行

四卷

御製皇極經世一書

廿四卷

增訂廣輿記

蔡方炳撰

十六本

大清一統全圖

二十七枚

分省地圖

知不足齋叢書

後知不足齋叢書



三月十日

一 南地之命也、其状如年尾、其命也  
一 其命如年尾、其命也、高子、其命也、一、其命也

一 幸、其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

其、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

其、其命也、其命也、其命也、其命也

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

其、其命也、其命也、其命也、其命也

其、其命也、其命也、其命也、其命也

三月十日

一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也  
一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也  
一 其命也、其命也、其命也、其命也、其命也

其命也、其命也、其命也、其命也、其命也



てんてんき直也

一 園方辰復居て出陣するも園方を控出  
し且出名を乞ふ

一 日保に度し谷にまゝりし林着物着  
谷手は山守修るも高野に正和  
者に接す

一 日保に潤し石井を招き木村(正解)  
方や、野に差きし一園方の修用と  
需ふ

一 高野の接の出版に加入す

三月十日

一 杉山今更町末段居絶命し出陣園方  
一 伴を現減す

一 音向末の駒高義一和由末三氏  
一 飲ちた末末也

一 本の上午七段即ち高向字盛、清  
一 石の二日送ふし高向字盛、清  
一 七段也

一 木村正解し、末更町と又園方出陣

和歌山大学蔵

和歌山大学蔵



十五枚 飢きり

一 小田切止海流飢きり冬観しむ事飢きり  
支那商名の寄贈を在の其一の流を記す

一 紀淑唯の... 真美大親...  
このまゝ 購入を勧めらるゝ一書りや  
来し方法すべき方を尋ふ

三月十日 一十号

一 十分... 志望... 見解... 叩... つき... なる

し... なる... 出... 受... 帝國... 國...  
い... なる... 七十... なる... 也

一 真美大親十冊し... 此代... 二  
十... なる... なる... なる... なる...  
購入... 決す

一 琳瑯... なる... 古... 徴... 外... 教... なる... 一... 冊...  
を... 購入

一 十分... なる... なる... なる... なる... なる... なる... なる...  
なる... なる... なる... なる... なる... なる... なる... なる...  
なる... なる... なる... なる... なる... なる... なる... なる...



四の臨時開校了

一 来りホ言の祝提提執行列とありて  
自よりありて言の体終に決し其分地  
をともす

一 田原宗村母を元云の教あるを兼式  
高の故去を扱を代志しし分えす  
の事

一 石井をいれ山良歎の高を測りし

三月廿日

一 彼去々紅の盤と決をいし守りし  
ことを振返す

一 川田氏圓吉日記を再檢し其終

二 傳記をよみ圓吉若干を檢出

二 之を述べてチャートを作し閱後と代

せん都合也

一 又二章限合の巻終をいし大橋邦彦

印代し二十日書成りし事あり

二 伝う如の事先のし色檢し又の

時を振返れしし事といふ事あり



一 意脈痛入に因書代大坂名向く即至  
可

一 未開くし幸田多きを待も  
本波振要化しす未亦書と天油  
脱行とあすすし作を日小林望三より  
の記行持任を命下す

一 受駿岡吉月紙元油ふへきと分五井  
に余す

三月廿三日

一 本りよ委用段西字くし開段

一 夕日四時くし祝提提行列を行  
ふ

廿四日

休段

廿五日

一 今乾段長大陽候と候にやう大木候  
伯くし因書言う此意くは言の宛くす



とありていふるは、此の如きことありしと云ふことあり

一 未片しし本館にありしと銘の字、後見  
出く、中し、下、物、記、を、記、する、御、名、也、  
湖、依、一、月、七、日、し、す、

一 尾、終、を、し、し、つ、さ、若、海、又、原、と、し、  
未、状、あり、し、

一 校、友、松、結、之、印、也、と、し、條、約、集、を、考、  
相、違、民、法、論、等、の、書、を、考、あり、し、十、の、通、  
し、論、記、を、二、書、考、あり、し、

一 上、野、書、道、の、也、と、古、様、一、巻、の、腰、字、を、  
記、す、

一 米、二、面、四、書、秘、説、書、と、あり、由、也、と、傳、く、  
下、の、子、関、係、あり、し、谷、本、傳、く、と、し、す、

一 古、の、子、記、美、高、書、印、 膳、字、集、の、原、を、  
換、井、的、也、と、云、す、

一 是、の、子、あり、し、古、也、と、考、す、古、の、新、傳、の、由、に、  
也、と、云、す、

一 今、衆、國、メ、一、ン、沙、ト、一、カ、ス、在、任、フ、工、ニ、十、ウ、也、と、  
幸、四、六、二、回、書、候、を、記、す、也、今、多、し、多、領、板、を、



東洋田舎書  
書流行る是れ和の帝國なるに因り彼も即ち是れ  
近世寺堂の御代たるに心三下騰言を山  
回る今も  
一高き原溪ノ様式決定する冊測定を也に  
局に批す

廿六

一 大陽信の所及に於て今報彼も大木造  
夫(大木者任意)氏と其之其昔年所  
一し予批書ししと云ふ事要飲を

可しと云ふ物詔書に由りしと位亮  
作也を築也之様詔書に云ふ

廿七

一 碓氷素中を也とあるは各宗陰の  
手輪二軸と傳入るに云ふ事印  
碓氷寺に於て十の字を也  
也

一 未月一と和あるは是れ月を日五十八とし千  
高を所及するに云ふ事







井字

一 以胡扇後をく 芝集し 圓書之形に作る  
つぎに 輪廻に上る部 七段目  
母と心

一 扇を芝集し 中へ 扇の柄二個出  
来り あり 扇柄を 寫し 付たり

一 少井三井の 扇を 出 氏海毛の 扇  
を 各段の 端へ 元へ 毎中 代書する  
文け 内 段

一 松山寺 芝集し 款 漢果外 八上 井入

一 扇の 形を 扇後 扇の 形に 寫し 付たり

一 圓書 一 代書 刻し 一 扇に 扇  
柄 一 氏 一 代書 と 付たり

三十。

谷口 芝集し 扇の 形に 寫し 付たり 扇  
柄 一 氏 一 代書 と 付たり

書 元 扇の 形に 圓書 と 一 扇し 一 扇  
柄 一 氏 一 代書 と 付たり



文印者... 言欲... 亦... 言欲  
 不... 言...  
 中... 言...  
 十... 言...  
 和... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...

一... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...  
 一... 言...



此の書行を締束す

一 元石出版、古文齋書房、四冊、注、又、

四月百

一 稿をとりこむるに於て、  
由、市田、岡、高、徳、を、  
（又、市田、岡、高、徳）を、  
親、高、の、  
利、益、を、具、く、

務、大、三、名、後、化、少、後、二、名、出、法、す

四月二十

日曜

一 斎、齋、を、し、め、修、入、の、旨、を、  
三、

大、堂、の、行、開、帳

日

一 古、文、田、高、三、乃、を、  
二、山、氏、

大、堂、の、行、開、帳



早稲田大蔵書印

山田市一印もろし旅者数十冊寄宛可  
りたる

一 命天永次也、供をき、後河を志

し、膳を執り又資料、取返す

一 本、行末、式本、ろし出、勤、

一 町、入津、福、ろし、ろし、吉、桐、(花、之、甚、重、了

へき)代、傍、し、免、姑、者、を、提、出、ろし、号、個、

ま、十、五、田、也

一 表、集、ろし、高、早、を、橋、上、標、本、字、に、陳、列、表  
り、

一 出、入、者、身、字、を、以、体、題、を、監、査、者、に、付、

清、の、扱、反、出、入、の、必、し、も、通、号、を、要、す、

徹、り、し、出、り、

五

一 考、海、の、局、を、於、て、十、五、百、名、を、集、録、す、

を、之、の、り、と、決、り、右、ろ、ろ、き、を、歸、ろ、す、

十七、十八、の、三、の、同、体、館、に、決、す、

一 回、考、字、の、照、し、付、ろ、つ、き、を、空、録、

紙、を、之、し、由、り、ろ、し、来、者、を、之、

早稲田大蔵書印



一 腰書の古本あり但丸を分して東儀久  
 しく集るる家集(言部)十冊信入  
 一 森望の一方に信のつぎ改出由  
 存あり多見氏を抱くるに訪るる

二

一 下段陽の事但改し事一を来  
 多所方へ余り  
 一 地質調査の事御中土性同説の者  
 并圖亦記あり

一 音韻圖 和と土性同二枚表装  
 しの行師を考す  
 一 備西史見録を英事記の中にも音  
 記あり  
 一 丸本三冊(珠本)改訂日記  
 記載し終了

十号一十号

一 喜島陸上遺物所十号を以て  
 行の事あり引続と十号と別







一 石川半常の遺物撰下二冊あり  
 一 在伯耆嶋舟所なる一巻、終尾紙之有目  
 衆入之古紙を名ふす、古紙無燐入紙  
 托し併に送す

五月一〇一六

五月一〇一六

之圖書を併入す、十七史外施す也、十七史  
 と崇禎ありて二十一人冊、汝七名、し朱  
 印あり、政式部なる事也、亦其蓋之本川  
 末出の十七史撰録と石川文山著也善  
 一 改下也、北條の田代と熱ノる  
 之十冊也

此書は、のりし書、終に圖書あり、其の末に  
 石川文山著とあり、此書は、石川文山著とあり、  
 結果に

三三八部 三三八冊



内

卷四、分

一五五

二一五

七三三

一〇三

未定録

二行と定録也  
七行稿也

一大段及名を延之辨来之圖書也(上)刊

七十三印敷十三印 三十四母償五箇中

丑製也

之由号巻(一)上(西)巻(新)者初之(三)行(三)行

ハ注又之圖書之(大)段巻(一)行(三)行(三)行

書者(一)行(三)行(三)行(三)行 杭州録(一)行(三)行

巻(一)行(三)行(三)行(三)行 又(三)行(三)行

巻(一)行(三)行(三)行(三)行

吟林

古(一)行(三)行

教(一)行(三)行

文集(一)行(三)行

三(一)行(三)行

經(一)行(三)行

一本(一)行(三)行(三)行(三)行(三)行(三)行(三)行(三)行

圖書

(珠(一)行(三)行)

五(一)行(三)行(三)行(三)行(三)行(三)行(三)行



早稲田大学図書印

此の内は凡そ十冊は  
全巻

此の内三冊  
御年か拂

御年か拂

御年か拂

御年か拂

御年か拂

御年か拂

西洋池  
御年か拂

外巻

御年か拂  
御年か拂

〇

上海の板及江稲次り  
とて高上  
とて高上  
とて高上

引合 一十一 朝東華輯要 二五冊

引合 一 奉遜紀略 六冊

引合 一 高如末記 六冊

引合 一 西興集要 四冊

早稲田大学図書印



和日大書院

引合 一 皇朝一統輿圖

引合 一 通志物志志

引合 一 方志一統志

引合 一 中國財政紀略

引合 一 中國財政支考

引合 一 新學類纂

引合 一 皇朝彙編

引合 一 維新彙編

引合 一 翼友彙編

引合 一 大板房輿記

三冊

二冊

六十冊

一冊

一冊

六冊

四冊

六冊

二冊

十二冊

引合 一 大板房輿記

一冊

引合 一 皇朝彙編

八冊

引合 一 皇朝彙編

百二十六冊

計 二十七冊 二百七十一冊

一 續編中一輯所着 (五月十日)

五月十日

古の著者光洋書カード印刷品に接し  
たふきもの)を教員高に備付、在るを月

和日大書院



未か所既由え油を中一のよの流る出来

七一也

四重集日報主幹

一 清の竹川彦彦男刻王治の像并に聯、

弘明碑又款真卯不刻碑又三三三字

燈考

柳公偉考

諸高武候祠を碑

款真卯考

款真廟廟碑款并考

王治の遺像并に以考

後

二月

山田中氏を考ふるに氏の友人紀念園考を  
本誌に寄る記をよむ 藤屋善方集の考あり

七月

五月一日附副島義一氏の考に依りて  
七位考一考をよむ 國考辨へし傳を以て  
に進考の上をよむ 考を考るに依りて  
其の考をよむ 代換を以る 田考也



This is a blank ledger page from an old book. It features a blue rectangular border enclosing the page. Inside the border, there are 12 vertical lines that create 11 columns of varying widths. The columns are arranged from left to right, with the narrowest columns on the far left and the widest in the middle. The paper is aged and yellowed.

皇朝通志卷之九

This is a blank ledger page, identical in layout to the left page. It has a blue border and 12 vertical columns. The paper shows signs of age and wear.

皇朝通志卷之九



以下全て  
白紙

和  
田  
大  
學  
図  
書  
館

和  
田  
大  
學  
図  
書  
館



